

新コラム/



Next Step

新しい一歩

ワインとハンコがコラボした商品開発 ～伝統ある印章の新たな価値を～

(株)創明社 (山梨県印判用品卸商工業協同組合)

政府のデジタル化推進の中で、印章業界が大きな岐路に立っている。その中、山梨県印判用品卸商工業協同組合の組合員である(株)創明社(身延町: 依田理愛社長)は、ワインコルクを使ったハンコの製品化に取り組んだ。

同社は、印章ケースの販売製造を手掛ける傍ら、永年ワインのギフト送付の業務などを請け負っていたこともあり、日本を代表する県産ワインの素晴らしさを知り、ワインとハンコを結びつけた商品ができないかと開発に乗り出した。ワインコルク

を活用し、社員がデザインなどを考案、試行錯誤を重ねてハンコが完成した。製品は円筒形のコルクの先端にゴム印を付け各種のハンコを取り付けた。ハンコの印影デザインとして「感



ワインのコルク栓を使ったハンコ

謝」「日本一」などのメッセージを入れたものを6種類作成。ワインラベルや絵手紙などメッセージカードなどに気軽に押しつけて楽しむ。消費者がオリジナルの印影のハンコを作れるように、カッターナイフなどで彫ることができる消しゴム印とコルクをセットにした商品も検討している。また、地場産品をイメージしたハンコのデザインも企画し、ワインを始め県産品などのPRも計画している。

印章業界を巡っては、菅内閣発足後直後の昨年9月に行政改革担当大臣に就任した河野太郎氏が「押印廃止」を各府省に要請したことを切っ掛けに「脱ハンコ」への動向が加速した。これまで行政手続きで行っていた押印の99%は廃止できるとして、印鑑登録をしていない認め印による手続きはすべて廃止することを明らかにしている。印鑑に関わる多くの業種が集積している本県の印章業界にとっては大逆風だが、印章を伝統文化としてではなく生活に密着したデザイン性のある道具として活かすため、業界として新たな用途に活路を見いだそうと模索している。